1 自己評価及び外部評価結果

作成日

令和 7年 2月 23日

【事業所概要(事業所記入)】

1. 1/2/1/1905					
事業所番号	3474400409				
法人名	社会福祉法人 安那福祉会				
事業所名	グループホーム サンサンホーム				
広島県福山市神辺町字東中条7610番 所在地 (電話) 084-967					
自己評価作成日	令和6年12月20日	評価結果市町受理日	令和7年3月27日		

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

甘木鮭却リンカサロDI	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022
基本情報リンク先URL	kani=true&JigyosyoCd=3474400409-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会	
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29	
訪問調査日	令和7年2月12日	

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりの入居者にできることを考えて、残存機能を最大限に活かした生活を送ってもらうことで、少しでも認知症の進行緩和に努めている。一人ひとりが持つ活動意欲を大切にしながら、家事における役割の提供、余暇活動、外出活動等の支援をしている。食事に関しても、口から食べることを大切にしており、入居者の嗜好や咀嚼、嚥下状態を日々観察して、一人ひとりに合った形態の食事を提供している。食事が楽しみになるよう、職員・入居者と協力して準備(盛り付け・味見)や片付け(皿洗い・下膳)をしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

グループホームは複合施設に併設されており、それぞれの施設との連携を図り、研修、委員会活動、災害対策などについても充実している。サンサンホーム福祉憲章である「個々のプライバシーを擁護し、高齢者が安全な環境のもとで生活できるよう最善の努力をする」をもとに、グループホームでは「一人ひとりの今を大切に」をモットーに明るい施設づくりを目指している。利用者の「やりたいこと」「行きたい場所」「会いたい人」アンケートを利用者の誕生日前に実施し、実現に繋げている。在宅生活中の環境を大切にし、かかりつけ医・主治医との関係が途切れないよう配慮し複合施設の事業所だけではなく、関係機関との連携の充実に力を入れている。

白己	外部	項目	自己評価	外部	評価
評価	評価		実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
ΙΨ	1念に	基づく運営			
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	板や事務所に掲示している。理念の中に、入居者のプライバシーに触れる部分があるが、職員が居室に出入りする際	事務所には法人の運営理念、事業所の理念「一人ひとりの今を大切に」を掲示し常に職員が意識し理念に沿ったケアを心がけている。法人の取り組みであるチャレンジシートを活用し、ユニットの年間目標、個人の目標を定め取り組み実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	以前は夏祭り等地域の行事への参加や、地域のボランティアの受け入れ等を随時行っていたが、新型コロナウィルス感染症流行に伴い、施設行事を縮小して開催していたり、ボランティア等の依頼が減少している。当事業所としては、市中感染等の状況をみながら交流機会を持ちたい。	感染対応のため施設行事、地域行事への受け入れ、参加は以前に比べると減少しているが地域の保育園との敬老会、中学生の職場体験の受け入れなど交流の機会を設けている。地域のボランティアの受受け入れもあり、ハーモニカ演奏会を施設で開催している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	面会時や運営推進会議を通じて、認知症 ケアの工夫や取り組み内容を家族や地域 の人々に紹介し、理解してもらえるよう 取り組んでいる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービス の実際、評価への取組み状況等につい て報告や話し合いを行い、そこでの意 見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回開催する運営推進会議では、 グループホームでの取り組み、状況報告 等を行っている。家族代表、地域包括職 員、行政、民生委員など幅広く意見を聴 きながらサービス向上に努めている。	2ヵ月に1回家族代表や民生委員、地域包括支援センター、行政職員の参加がある。施設での取り組み、行事案内、事故報告、研修など報告している。運営推進会議で出た意見、要望を法人の管理者会議の議題に上げサービスの向上に活かしている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議に行政代表に参加しても らっており、サービスの取り組み状況等 を伝える機会を設けている。	日頃から行政と連携を取り、運営推進会 議への定期的な参加、行政からの生活保 護受給者の受け入れや相談を受ける体制 が整っており、協力関係を築いている。	

白己	外部	項目	自己評価	外部	評価
評価	評価		実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密 着型サービス指定基準及び指定地域密 着型介護予防サービス指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を 正しく理解しており、玄関の施錠を含 めて身体拘束をしないケアに取り組ん でいる。	身体拘束についての研修を年2回実施しており、「禁止対象となる具体的行為の再確認」や「不適切なケア・スピーチロックについての話し合い」を行っている。	身体拘束は行わない方針である。法人の各事業所から身体拘束廃止委員会のメンバーを選出し、3ヵ月に1回会議を行っている。日頃から0JT (職場内訓練)チェックシートを活用し不適切ケア、禁止行為の再確認を行っている。研修は法人で年に2回開催している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等 について学ぶ機会を持ち、利用者の自 宅や事業所内での虐待が見過ごされる ことがないよう注意を払い、防止に努 めている。	者虐待に繋がることを現場職員に伝え、		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	パンフレット等で学ぶ機会はあるが、取り組みは不十分である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結,解約又は改定等の際は, 利用者や家族等の不安や疑問点を尋 ね,十分な説明を行い理解・納得を 図っている。	契約時に説明をしており、説明後は気になる点や疑問点を尋ねるようにしている。また、改定の際は事前に家族への通知文を発送し、理解が得られるよう対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情に関しては電話や苦情対応表での受付が可能である事を契約時に説明しており、意見や要望の把握ができる体制にしている。また、運営推進会議で家族代表から意見をもらい、サービスの改善に繋げていけるようにしている。	事務所の窓口に意見箱を設置している。 運営推進会議、日頃の家族との連絡で意 見、要望を伺っている。複合施設のため 感染対応を徹底しているが、面会や外出 の希望があり面会時間の延長や、外出が 行えるよう法人の管理者会議で相談し運 営に反映している。	

自己	ᄊᄳ	項目	自己評価	外部	評価		
評価	評価		実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員 の意見や提案を聞く機会を設け、反映 させている。	体制変更等の際には、ユニット会の時間を使って代表者から現場職員に対して説明を行ったり、管理者が面談等で個々の職員の意見を聞く機会を設けている。	法人の組織図で相談窓口を定め、職員が 意見や提案を言える体制作りができてい る。毎月の定例会議、年に2回実施され る個人面談等で管理者が意見を聞く機会 を設けている。シフトの勤務時間の変更 など、職員の意見を反映した実績があ る。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や 実績、勤務状況を把握し、給与水準、 労働時間、やりがいなど、各自が向上 心を持って働けるよう職場環境・条件 の整備に努めている。	代表者が個別面談を行うなど、働きやすい環境づくりに努めている。また連絡網を整備し、職員側からも代表者に意見を出しやすいよう努めている。				
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりの ケアの実際と力量を把握し、法人内外 の研修を受ける機会の確保や、働きな がらトレーニングしていくことを進め ている。	外部研修については、個々の職員の特性が最大限発揮できる研修に参加できるよう、その都度選考を行っている。また、年度初めに1年の目標を「チャレンジシート」として提出し、目標達成に向けて知識と技術の習得に努めている。				
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	管理者研修、認知症介護実践者研修、外部研修等において同業者との情報交換の機会を設けている。また、地域包括支援センター主催の地域密着型介護事業所交流会に参加の機会を設け、事業所の課題の提案や情報交換をしている。				
Ⅱ 妄	Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本 人が困っていること、不安なこと、要 望等に耳を傾けながら、本人の安心を 確保するための関係づくりに努めてい る。	入居申込時や入居前面接等、入居前に本 人に話を聞く機会を設けている。				

白己	外部	項目	自己評価	外部	評価
評価	評価		実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
		○初期に築く家族等との信頼関係			
16		サービスの利用を開始する段階で、家 族等が困っていること、不安なこと、 要望等に耳を傾けながら、関係づくり に努めている。	明時に不安な息を家族に確認したり、本		
		○初期対応の見極めと支援			
17		サービスの利用を開始する段階で、本 人と家族等が「その時」まず必要とし ている支援を見極め、他のサービス利 用も含めた対応に努めている。	入居申込時や入居前面接等、入居前に本 人と家族に話を聞く機会を設けている。 長期的な視野での考え方として、特別養 護老人ホームに入所の選択肢などがある ことも、場合によっては提案している。		
		〇本人と共に過ごし支えあう関係			
18		職員は、本人を介護される一方の立場 に置かず、暮らしを共にする者同士の 関係を築いている。	日常的に一緒に家事を手伝ってもらうなど生活の主体者として捉えている。また、職員のサポートで入居者同士が円滑に関わり合えるように、その方に合った話題の提供等を行っている。		
		〇本人を共に支えあう家族との関係			
19		職員は、家族を支援される一方の立場 に置かず、本人と家族の絆を大切にし ながら、共に本人を支えていく関係を 築いている。	職員での対応が難しい時は、病院受診を ご家族にお願いするなど、一緒に本人を 支えていけるような協力体制をとってい る。		
		○馴染みの人や場との関係継続の支援		Photh Land And Herry and the state of the st	
20	8	本人がこれまで大切にしてきた馴染み の人や場所との関係が途切れないよ う,支援に努めている。	病院受診の際にご自宅の近くを通って帰る等、本人が大切な場所を意識できるよう働きかけている。また、家族に面会の提案をしたり、電話で本人と家族が会話で繋がれるようサポートを行っている。	家族の協力を得られる関係にあり、受診時など一時帰宅や、兄弟・自宅近所の顔なじみの方と交流ができるよう働きかけている。地元の行事「神辺福祉祭り」は昔から地元の方の参加が多く利用開始しても参加できるよう努めている。	

白己	外部	項目	自己評価	外部	評価
	評価		実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者同士での助け合いの言葉のやり取りを見守り、入居者間の関係が円滑に進むよう職員が間に入り、会話や作業のサポートを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても, これまでの関係性を大切にしながら, 必要に応じて本人・家族の経過をフォ ローし,相談や支援に努めている。	これまでの関係を断ち切らないよう考え ているが、現実としてかかわる機会が減 少している。		
Ш ₹	の人を	らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望, 意向の把握に努めている。困難な場合 は,本人本位に検討している。	合は家族に確認したり、本人が意向を伝 えられていた頃の言動などを参考にして		
24		○これまでの暮らしの把握一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方,生活環境,これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前においては、本人との面談や情報 提供書類で把握している。入居時や面会 時においては、ご家族にこれまでの生活 歴について聞くなどしている。また、本 人との会話の中からもしっかりと読み取 るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方,心身状態,有する力等の現状の把握に努めている。	ケース記録や24時間表を活用し、一人ひとりの1日の過ごし方、心身の状況等の把握に努めている。その都度現状把握ができるように、状態変化があれば24時間表の更新を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部	評価
	評価		実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	家族には現状を伝えると共にケアの方向性について、面会時や電話連絡で話し合っている。職員にはユニット会やモニタリングの機会で意見を聞き、現状の課題やケアについて検討し、計画作成に反映している。	利用開始時には家族、本人の意向を確認し1ヵ月、2ヵ月で介護計画を作成している。生活状況を家族、主治医へ伝え、2ヵ月に1度のモニタリングを行い半年に1回、計画書を見直し課題やケアについて検討し作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果, 気づきや工夫を個別記録に記入し, 職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	精神面や体調の変化も含めて、普段と異なる様子があれば気付きとして記録している。認知症への対応や声かけの工夫は実践結果も含めて記録している。ケアプランの実施経過や日常の会話のやりとりなども個別記録に記入し職員間で共有、見直しに活用している。		
28		スニーズに対応して 既存のサービス	入居者の急変時には、施設内の他部署に 応援職員を依頼し入居者の見守りをして もらったり、感染症により他施設から職 員派遣要請があれば、応援として職員を 派遣するなど、職員間で助け合える体制 を構築している。		
29		資源を把握し、本人が心身の力を発揮	施設全体の催しとして年に2回施設内ショッピングがあり、地域の販売業者に来てもらい、入居者が衣類を選んで購入する機会を設けている。地域の行事への参加はここ数年は困難となっている。		
30	11	〇かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切 にし、納得が得られたかかりつけ医と 事業所の関係を築きながら、適切な医 療を受けられるように支援している。	連絡しに上で安診対応を行つしいる。必	契約時に事業所の協力医療機関に変更が可能と説明を行っている。利用者は個々のかかりつけ医となっており利用開始前同様通院を継続している。事業所で連携シートを作成し主治医と連携がスムーズに図れるよう工夫している。	

白己	外部	項目	自己評価	外部	評価
評価	評価		実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
31		えた情報や気づきを,職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し,	看護職員は常駐はしていないが、併設施設の看護職員、かかりつけ病院の看護職員、かかりつけ病院の看護職員と連携を取っている。体調不良で通院が難しい場合は、かかりつけ医に訪問看護事業所を紹介してもらい、点滴等を実施することも場合によっては可能としている。		
32		きるように、また、できるだけ早期に 退院できるように、病院関係者との情	入院した時には、施設での生活の様子を 病院側に伝える等してスムーズに治療開 始できるよう情報提供している。また、 治療の経過や病棟内での生活の様子や注 意点を確認し、早期退院に向けて情報交 換を行っている。		
33		○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ホームの紹介や受け入れ可能な価値製を	事業所で対応できる範囲を家族、主治医へ伝え支援している。重度化により事業所での生活が困難となれば希望される施設へ繋げる体制ができている。主治医の往診が可能な場合は看取りを実施している。往診が可能な医師への主治医の変更などチームで支援する体制を整えている。	
34		全ての職員は応急手当や初期対応の訓	緊急時に職員が迅速に動けるよう、緊急 時のマニュアルの職員への周知を行って いる。ただ、対応訓練については定期的 に実施できておらず、今後施設の看護師 の協力を得て実施していく必要性があ る。		
35	13	を問わず利用者が避難できる方法を全	地理的に地域の人々の協力は即座には望めない状況にあるが、施設全体の消防訓練を実施し、防災意識の高揚を図っている。法人全体としてはBCP(事業継続計画)を作成し、職員への周知を行っている。	複合施設であり法人合同で避難訓練を年に3回実施している。火災訓練では毎年9月に消防署の協力のもと火災訓練を行っている。夜間想定の訓練、地震、土砂災害の訓練も実施している。備蓄品は食料、水、日用品を3日分、発電機を整備している。	

自己	ᄊᄳ	項目	自己評価	外部	評価
評価			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
IV Z	の人は	らしい暮らしを続けるための日々の支援			
		〇一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの 確保	できるだけ一人ひとりに合った言葉が け、対応を行っている。ユニット会で	入社時に接遇の研修を開催、年に1回法	
36	14	1 (1 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	は、不適切なケアについての研修を行い、意見交換を実施している。適切な言葉がけができるよう、ユニット全体に注意喚起を促している。	人全体で接遇の研修を実施している。日頃から入浴時や排泄時の声掛けや職員間の会話についても、内容や個人が特定されないよう配慮している。	
		〇利用者の希望の表出や自己決定の支援			
37		日常生活の中で本人が思いや希望を表 したり, 自己決定できるように働きか けている。	入居者が自己決定できるよう、その人に とって理解しやすい声かけの工夫、難し い場合は選択肢を上げて自己決定できる ように働きかけている。		
		〇日々のその人らしい暮らし			
38		はなく,一人ひとりのペースを大切に	職員のペースでなく、一人ひとりのペースを大切にしている。また、その日の精神状態や体調を観察し、本人に合ったペースで生活できるよう努めている。		
		○身だしなみやおしゃれの支援			
39		その人らしい身だしなみやおしゃれが できるように支援している。	服の選択等は可能であれば本人にお願いするようにしている。理美容は施設に美容師に来てもらっており、髪型を本人に確認したり、職員が散髪したい時期を相談するなどしている。		
		〇食事を楽しむことのできる支援	出来るだけ一人で思うように食べられる	食事は複合施設のため栄養士が事業所全	
40	15	ひとりの好みや力を活かしながら、利	ように食事形態を工夫したり、好みについても出来る限り希望に添うよう提供し	体の調理を行っている。事業所では職員と利用者がご飯を炊き、食事を取り分けている。事業所で行うイベント食では利用者の目の前で握る「寿司バイキング」やお菓子作りを行い食事を楽しめるよう工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部	評価
評価	評価		実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス,水分量が一日を通じて確保できるよう,一人ひとりの状態や力,習慣に応じた支援をしている。	出来るだけ一人ひとりの状態に合わせた 食事形態を提供している。また、食事や 水分量が少ない時は、記録に残して情報 を共有したり、毎月体重測定を行い、増 減をチェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持□の中の汚れや臭いが生じないよう, 毎食後,一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、一人ひとりの状態に応じた方法 で口腔ケアを行っている。必要な時に は、訪問歯科の医師や歯科衛生士に個別 の口腔ケアについて相談を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	出来るだけトイレでの排泄が出来るよう 一人ひとりの排泄リズム、適した排泄介 助の把握に努めている。ユニット会やモニタリングで個々の「誘導時間の検討」 や「排泄失敗の確認頻度の検討」など話 し合いを行っている。	利用者一人ひとりの24時間シートを活用し自立に向けた支援に繋げている。紙パンツから布パンツに変更となった例もあり、二ヶ月に一回のモニタリングで声掛けのタイミング、使用する物品を職員間で検討している。トイレの場所は分かり易く表示している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘予防として運動や水分摂取量の チェックに努めており、必要に応じて水 分摂取量を増やすなどしている。便の形 状や頻度も記録に残して情報共有してい る。生活改善だけで難しい場合には、受 診時に医師に相談を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	人俗担否がめる人店者に対しては、誘う 時間帯や誘い方が適切であったか職員間	週に2回入浴を提供しているが、希望があれば4回の入浴も可能である。利用者、家族の希望があれば入溶剤を使用し入浴が楽しめるよう支援している。同性介助にも配慮しており、職員、利用者で入浴日を決める仕組みがある。	

白己	外部-評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
46		○安眠や休息の支援一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	入居者の生活リズムを尊重しながら、必要な場合には、職員より臥床の声かけを行っている。就寝時間が遅く、朝方ぐっすり眠られる方に関しては、生活に支障がない範囲で起床の声かけを最後に行うなど、個別で対応を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や 副作用,用法や用量について理解して おり,服薬の支援と症状の変化の確認 に努めている。	入居者一人ひとりの薬の内容をケース記録にファイルして、いつでも確認出来るようにしている。強い眠気が続く等変わった症状があれば記録に残し、受診時医師に伝えている。服薬ミスを防ぐため、薬の準備に関しては職員2名での確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせる ように、一人ひとりの生活歴や力を活 かした役割、嗜好品、楽しみごと、気 分転換等の支援をしている。	家事に関しては、洗濯畳みや洗濯干し、 食器洗い、食事の盛り付けなど個々の利 用者が興味を持てる内容を把握して提供 している。楽しみごとに関しては、歌や 書き物、新聞、字合わせ等を提供し、入 居者の反応や活動意欲を観察して好みの 把握に努めている。		
49	18	戸外に出かけられるよう支援に努めて いる。また、普段は行けないような場	日常会話の中から本人の興味のある場所 や行ってみたい所を尋ねるなど、本人の 希望に出来るだけ添えるような外出活動 を提供している。初詣や花見など、入居 者が季節を感じられるような外出活動を 意識的に提供している。	日常的には複合施設の周りの散歩、屋上のテラスでの外気浴を実施している。感染症対策のため柔軟な外出支援が困難な状況にあるが、季節に合わせた初詣や花見など、行事計画を立て実施している。グループホームの取り組みとして日帰り旅行など予定している。	
50		〇お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切 さを理解しており、一人ひとりの希望 や力に応じて、お金を所持したり使え るように支援している。	本人が管理しているお金については、自 由に使って頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
評価			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族や親族から本人の声が聞きたいと電話があった際は、可能な限り本人と家族が電話でやりとりができるように支援している。また、本人持ちの携帯電話を使って家族と会話が出来るよう個別で支援を行っている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関,廊下,居間,台 所,食堂,浴室,トイレ等)が,利用 者にとって不快や混乱をまねくような 刺激(音,光,色,広さ,温度など) がないように配慮し,生活感や季節感 を採り入れて,居心地よく過ごせるよ うな工夫をしている。	入居者本人の所有物、入居者や職員が作った物等を飾ったりし、生活感を出した共有空間づくりを行っている。また、クリスマスツリーや正月飾りを入居者と一緒に用意するなど、季節感も取り入れている。	食堂、リビング、畳スペースは十分な広さがあり、一人で過ごせるスペースや他者とグループで楽しめるよう場所がある。入居者が作成した作品の展示や、雛人形の七段飾りの設置など季節感があり、居心地よく過ごせるよう配慮している。	
53		〇共用空間における一人ひとりの居場所 づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気 の合った利用者同士で思い思いに過ご せるような居場所の工夫をしている。			
54	20	家族と相談しながら,使い慣れたもの や好みのものを活かして,本人が居心	居室に在宅で使われてきた家具や寝具等を入れて、個々の居室づくりを行うよう努めている。本人が寂しさを感じないよう家族の写真を居室に飾る等、家族とも相談しながら工夫している。	利用開始前に自宅で使用していた家具の 持参を利用者、家族に説明している。 ポールハンガーを設置し自分で服を選べ る楽しさや、お薬カレンダーを設置し自 宅と同じ環境で過ごせるよう配慮してい る。テレビやDVDプレーヤーの持参もあ り、利用者個々に合った居室づくりの工 夫が見られる。	
55		〇一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして,安 全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレに張り紙を貼ったり、居室に目印をつける等工夫をしている。また、夜間の常夜灯の確認やベッド・家具の配置を		

V アウトカム項目			
		0	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の3分の2くらいの
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。		③利用者の3分の1くらいの
			④ほとんど掴んでいない
		0	①毎日ある
	ᆒᇚᆇᆝᄥᄝᆦ ᆥᄱᇠᆉᆝᄥᄝᆦ ᄝ		②数日に1回程度ある
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		③たまにある
			④ほとんどない
		0	①ほぼ全ての利用者が
F0	 利用者は,一人ひとりのペースで暮らしている		②利用者の3分の2くらいが
58 59	利用有は、一人ひとりのハースで春らしている		③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
			①ほぼ全ての利用者が
E0.	 利用者は,職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	0	②利用者の3分の2くらいが
59	利用者は、順貝が文振することで生き生きした衣情や安かみられている 		③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
			①ほぼ全ての利用者が
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	0	②利用者の3分の2くらいが
"			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
		0	①ほぼ全ての利用者が
61	 利用者は,健康管理や医療面,安全面で不安なく過ごせている		②利用者の3分の2くらいが
"	門用行は、健康官兵で区源曲、女主曲と行文ない過ごとといる		③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
		0	①ほぼ全ての利用者が
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して		②利用者の3分の2くらいが
02	暮らせている		③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
	職員は,家族が困っていること,不安なこと,求めていることをよく聴いて	0	①ほぼ全ての家族と
63			②家族の3分の2くらいと
"	おり, 信頼関係ができている		③家族の3分の1くらいと
			④ほとんどできていない

64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている				
64	65	 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来てい		
65 正営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりで深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている ①大いに増えている ②少しずつ増えている ②少しずつ増えている ②少しずの増えている ③あまり増えていない ④全くいない ④全くいない ①ほぼ全ての職員が ③職員の3分の2くらいが ③職員の3分の2くらいが ④ほどんどいない ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほどんどいない ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の1くらいが ④ほどんどいない ②利用者の3分の1くらいが ④ほどんどいない ②利用者の3分の1くらいが ④ほどんどいない ②家族等の3分の2くらいが ④ほどんどいない ②家族等の3分の2くらいが ②家族等の3分の2くらいが ②家族等の3分の2くらいが ②家族等の3分の2くらいが ②家族等の3分の2くらいが ②家族等の3分の2くらいが ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○				②数日に1回程度
1		ত	0	③たまに
2 2 2 2 2 2 2 2 2 2				④ほとんどない
65 や深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている 66 職員は、活き活きと働けている 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思				①大いに増えている
や深まりかあり、事業所の理解者や応接者が増えている	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がり		②少しずつ増えている
①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の2くらいが ④ほとんどいない ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ④ほとんどいない ④ほとんどいない ②家族等の3分の2くらいが ④ほどんどいない ②家族等の3分の2くらいが ②家族等の3分の2くらいが ②家族等の3分の2くらいが ②家族等の3分の2くらいが ②家族等の3分の2くらいが ○ ②家族等の3分の2くらいが ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	00	や深まりがあり,事業所の理解者や応援者が増えている	0	③あまり増えていない
66 職員は、活き活きと働けている ○ ②職員の3分の2くらいが 3職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない 0 ②利用者が ○ ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない ○ ①ほぼ全ての家族等が ○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ②家族等の3分の2くらいが				④全くいない
66 職員は、活き活きと働けている ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の2くらいが ④ほとんどいない ① 1 ままままままままままままままままままままままままままままままままま				①ほぼ全ての職員が
3 職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない ① はぼ全ての利用者が ○ ②利用者の3分の2くらいが ③ 利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない ○ ① 1ほぼ全ての家族等が ○ ② 1ほぼ全ての家族等が	66	職員は、活き活きと働けている	0	②職員の3分の2くらいが
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない 〇 ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが				③職員の3分の1くらいが
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない 〇 ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが			○ ③たまに ④ほとんどない ①大いに増えている ②少しずつ増えている ②少しずつ増えていない ④全くいない ①ほぼ全ての職員が ○ ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない ①ほぼ全ての利用者が ○ ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない ○ ①ほぼ全ての家族等が	④ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない ○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが				①ほぼ全ての利用者が
③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない ○ ①ほぼ全ての家族等が ○ ②家族等の3分の2くらいが	67		0	②利用者の3分の2くらいが
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思 ②家族等の3分の2くらいが	67	戦員から見て、利用者はサービスにあめむね海走していると思う 		③利用者の3分の1くらいが
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思 ②家族等の3分の2くらいが				④ほとんどいない
1 68 1 2 3 3 5 6 7 1771 1 2 3 3 3 7 1 7 1 7 1 7 1 7 1 7 1 7 1 7 1 7			0	①ほぼ全ての家族等が
	68	職員から見て,利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		②家族等の3分の2くらいが
				③家族等の3分の1くらいが
④ほとんどできていない				④ほとんどできていない

2 目標達成計画

事業所名 グループホームサンサンホーム

令和7年3月21日 作成日

【日梅達的計画】

	標度	達成計画 】			
優先順位	項目番号	現状における 問題点, 課題	目標	目標達成に向けた 具体的な取組み内容	目標達成に 要する期間
1	26	介護計画についての実 施記録が不十分な部分 がある。	職員全員が利用者一人 ひとりの介護計画内容 を確認・把握し、実施 状況を記録に残す。	介護計画の更新時のみ ではなく、定期的(1 回/月)に介護計画の 内容を再確認する機会 を設ける。	2年
2	2	感染症対策に伴い、地域とのつながり・関わりが減少している。	地域行事への参加や施設行事への招待、ボランティアの受け入れ等、地域交流の機会を増やしていく。	市中感染等の状況に応じて、臨機応変に感染 対策の見直しを行う。	2年
3	40	事業所で様々なイベン ト食を提供している が、アルコール類等の 嗜好品の要望に対応で きていない。	入居者の方の要望に柔 軟に対応し、日常生活 の充実を図っていく。		1年
4					
5					
6					
7					